



今年の福男福女が決定！

1月14日(日)、おおさき福男福女選び実行委員会主催の「七代目おおさき福男福女選び」が開催され、「福」をつかもうと町内外から80名が参加しました。

松岡金物店前から都萬神社境内の巨大ゴールまでの約365メートルの坂道を駆け上がり「壱番福」に輝いたのは、第一鹿屋中学校3年生の本門望来さん、Osaki R.C(ランニングクラブ)でコーチを務める^{けんざきつづみ}検崎鼓未さんと、福キッズの部は大崎小学校6年生の中尾夢愛さん、中沖小学校5年生の久徳蒼太さんでした。壱番福から参番福の皆さんには、町内各社から協賛いただいた豪華景品が贈られました。

今年も、町内で自主トレーニングをしていた広島東洋カープの選手3名や福岡県のタレント3名が参加し、また、参加者の中には仮装姿で走る方も見られ、イベントを盛り上げていました。



憧れの着物着付け体験 艶やかな着物に笑顔



1月14日(日)、町内で生活するベトナム出身の技能実習生8名が、着物の着付けを体験しました。これは、実習生の「日本で着物を着たい」という夢を叶えてあげたいと、受け入れ家庭の萩原洋一さん、よし子さんご夫妻が日本和装学園大隅本校の溝口千恵子総合学園長(益丸)に依頼し、実現したものです。溝口さんは着物一式を貸し出し、弟子2名と一緒に2時間半ほどで8名のヘアセットと艶やかな着物を着付けました。実習生はふれあいの里公園の日本庭園に移動し、笑顔で写真を撮り合っていました。実習生は「着物を着ることが夢だったので、とても嬉しい」と話されました。



自分たちで打った そばは格別



1月13日(土)、野方農村環境改善センターにおいて、野方小学校5・6年生19名がそば打ちに挑戦し、野方地域の皆さん約10名と交流しました。児童は、9月にそばの種蒔き、11月にそばの花を観察、12月に^{とうみ}唐箕を使った選別を体験しました。今回、佐土原正治さんからそばの打ち方を教わった後、4・5人のグループで協力しながら、こねたり、のぼしたり、切ったりして作りました。6年生の藤岡咲希さんは「切り揃える作業が難しかったです。美味しいそばを食べるまでに多くの工程があり、手間がかかってできていると思いました」と話してくれました。打ったそばは地域の皆さんが調理をし、児童に振る舞われました。